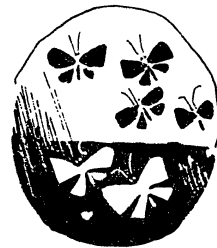


農業



平成30年4月号
会誌 No. 1637

目次

巻頭言

- 「農」を拓げる東京農大……………高野 克己 3
－農学・生命科学系の総合大学へ－

論 壇

- 国研での花き研究に期待……………腰岡 政二 4

農業懇話会

- 現代日本における農村の危機と再生……………佐無田 光 6

平成農業技術史研究会

- 第6回平成農業技術史研究会－平成農業技術（畜産・草地）の展開－
話題提供……………柴田 正貴 25

表彰農家訪問

- 中山間地における和牛繁殖を核とした6次産業化への挑戦……………横内 圀生 37
－大分県九重町に鷺頭栄治さんを訪ねて－

農業・農村の現場から

- 女性農業経営者として農業をもっとオシャレに！……………澤野 久美 46
－富山県下新川郡入善町（株）アグリたきもと 代表取締役 海道瑞穂氏－

世界の農業は今

米国の農業と農業支援政策の現状と行方……………勝又健太郎 51

私の経営と志

子供たちの夢「No.1 農業」を目指して……………吉村 透 56

表彰

平成29年度大日本農会賞の受賞者…………… 58

付：大日本農会と東京農業大学の関係

第57回全国青年農業者会議

プロジェクト発表・農業青年の意見発表等受賞者…………… 62

統計情報

鶏卵流通統計調査（平成29年）…………… 64

農政情報

…………… 65

大日本農会だより…………… 66

表紙写真説明

ぼうしゅう 『房州びわ』の収穫（千葉県南房総市富浦町）

ビワはバラ科に属する中国原産の植物で、長崎の『茂木びわ』とともに千葉の『房州びわ』が有名です。千葉の富浦町（現・南房総市）では温暖な海洋性気候を活かして江戸時代からビワが栽培され、地の利を生かして江戸に出荷していました。

『房州びわ』は大果が特長で、みずみずしく、すっきりした甘みのさわやかな味覚で、初夏にぴったりの果物です。ビワの果肉はとても柔らかく傷みやすいので、手で直接触らないように注意して収穫が行われます。

温室栽培での収穫は露地栽培（5月下旬～6月下旬）より早く、4月から収穫が始まります。平成28年度農事功績者、南房総市の穂積昭治氏は、急傾斜で高所作業となる袋掛け、収穫等の負担軽減と収穫時期の分散のため昭和58年に温室を建て、平成7年から観光ビワ園を始めました。穂積氏のビワ園をはじめ市内のビワ農園ではビワの収穫体験も行われ、ゴールデンウィークや土日にはこの味覚を求めて多くの観光客が訪れます。

（編集部）